県道関係埋蔵文化財発掘調査概報

平成14年度

鎌野西遺跡

三谷中原遺跡

川原遺跡・本郷遺跡

道免地区

2003.3

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

例　言

1. 本書は、県道改良事業に伴い平成14年度に実施した三谷中原（みたになかはら）遺跡、鎌野西（かまのにし）遺跡、川原（かわら）遺跡・本郷（ほんごう）遺跡（中間地区・西山崎地区）、道免地区の計５遺跡の発掘調査の概要を記録したものである。

2. 本調査は、香川県教育委員会文化行政課が調査主体となり、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当者として実施した。

3. 本年度の財団法人香川県埋蔵文化財調査センターの調査組織は、次のとおりである。

総　括	総　務	調　査
所　長　小原　克己	参　事　河野　浩征	参　事　梅木　正信
次　長　渡部　明夫	副主幹　野保　昌弘	主任文化財専門員　藤好　史郎
	係　長　多田　敏弘	
	主　査　山本　和代	
	主任主事　高木　康晴	

三谷中原遺跡、鎌野西遺跡、川原遺跡・本郷遺跡		道免地区	
文化財専門員	森下　友子	文化財専門員	宮崎　哲治
主任技師	小林　明弘	主任技師	松岡　　晶
調査技術員	加納　裕之	調査技術員	中里　伸明
調査技術員	武井　美和		

4. 調査に際しては、次の機関の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同敬称略）。
香川県高松土木事務所、香川県西讃土木事務所、地元各自治会、地元各水利組合

5. 本書で使用した遺構略号は、次のとおりである。
ＳＡ：柵列　ＳＢ：掘立柱建物　ＳＤ：溝状遺構　ＳＥ：井戸　ＳＨ：竪穴住居
ＳＫ：土坑　ＳＰ：小穴　ＳＲ：自然河川　ＳＸ：性格不明遺構

6. 本書で用いる方位の北は旧国土座標第Ⅳ系の北である。

7. 本書の執筆、挿図の作成・浄書は、調査各担当職員が分担して行った。執筆者は目次に記した。また、編集は森下が担当した。

本文目次

1. 調査の経緯（藤好）…… 1

2. 三谷中原遺跡（森下）…… 3

3. 鎌野西遺跡（森下）…… 11

4. 川原遺跡・本郷遺跡（藤好）…… 14

5. 道免地区（宮崎）…… 20

1. 調　査　の　経　緯

1. 発掘調査

平成14年度の県道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、香川県教育委員会と財団法人香川県埋蔵文化財調査センターとの間で平成14年４月１日付けで締結した「埋蔵文化財調査契約」に基づき実施した。発掘調査を実施した遺跡は、鳥坂インター線の三豊郡三野町に所在する男谷窯跡・道免地区、県道中徳三谷高松線高松市三谷町他に所在する北野遺跡・鎌野西遺跡・三谷中原遺跡、県道円座香南線の高松市中間町・西山崎町に所在する中間・円座地区の４遺跡・３地区の予定で開始した。この内、県道鳥坂インター線と県道円座香南線についてはまず予備調査を実施し、その後本調査を引き続き実施する計画であった。

鳥坂インター線は国道11号から四国横断自動車道の高松自動車道につながるハーフインターのアクセス部が対象地である。路線予定地の近くには男谷窯跡・道免窯跡が所在し、地形的に類似した谷筋や丘陵・緩斜面が広がる。年度当初段階では対象地の用地取得が完了しておらず、用地買収が完了していなかったが、県土木部道路建設課の優先順位の高い事業であり早期着手の要請があり、用地取得箇所から順次予備調査に着手した。当初計画では調査対象面積が2,300㎡ で調査期間が４月から７月までの４ヶ月間であったが、予備調査の結果、検出した遺構が少なく４月から５月の間で大半の調査が終了し、７月に一部用地取得が遅れた国道11号の東西の箇所の調査を行った。発掘調査業務の作業量が当初見込みほどには至らなかったため、平成11年度に発掘調査を実施した県道多度津丸亀線の中東遺跡の整理作業を６・７月に実施した。

県道中徳三谷高松線の北野・鎌野西・三谷中原遺跡の発掘調査は昨年度から着手し、昨年度の継続事業である。当初計画では３遺跡で5,000㎡ の発掘調査を実施する計画であったが、北野遺跡の用地取得が遅れたため、鎌野西･三谷中原遺跡で3,479㎡ を４月から10月までの７ヶ月間で調査を実施した。北野遺跡は平成15年度に発掘調査を実施する予定である。今年度の三谷中原遺跡の発掘調査は昨年度調査区を間に挟み、南北に分かれた調査区となった。南部の県道三木国分寺線北側の調査区で、大規模な埋没河川とそれに切られた条里坪界の南北方向の溝を検出した。埋没河川は出土遺物から古墳時代初頭にはすでに形成され、中世期まで継続するようである。条里坪界溝は調査区の西部を南北方向を有し昨年度の調査区をへて北部の調査区までの間で検出した。三谷中原遺跡の北部調査区は、南海道推定地に相当する。調査では南北の坪界溝とそれに直行する溝が共存することを確認した。東西方向の溝は南海道の側溝の可能性があるが現在の市道との重複により確認範囲が狭いことと坪界との交点である可能性が高く確実な結論を出すには至っていないが南海道の可能性が高い県道円座香南線の本郷遺跡（中間・円座地区A）のデータからその延長線上に位置する三谷中原遺跡では南海道が対象地内に含まれる可能性が高くなってきた。

県道円座香南線（地域高規格道路）の今年度の調査対象地は、昨年度発掘調査を実施した高松市岡本町川岡遺跡の北で中間町の県道三木国分寺線までの間を対象として予備調査を実施し、その後保護措置が確定した範囲について発掘調査を実施する計画で、調査対象面積は3,200㎡ の予定であった。調査期間は11月から３月までの５ヶ月間である。まず用地取得が進んだ国道32号バイパスから県道三木国分寺線の間約80,000㎡ を対象として予備調査を実施した。予備調査は、11月から12月にかけて実施したが、路線内の概要を早期に把握する必要があり、先行して10月にも一部の調査を実施した。予備調査は1,468㎡ を実掘した。この予備調査対象地内にも家屋部等で用地取得ができていない区域があり、遺跡の内容

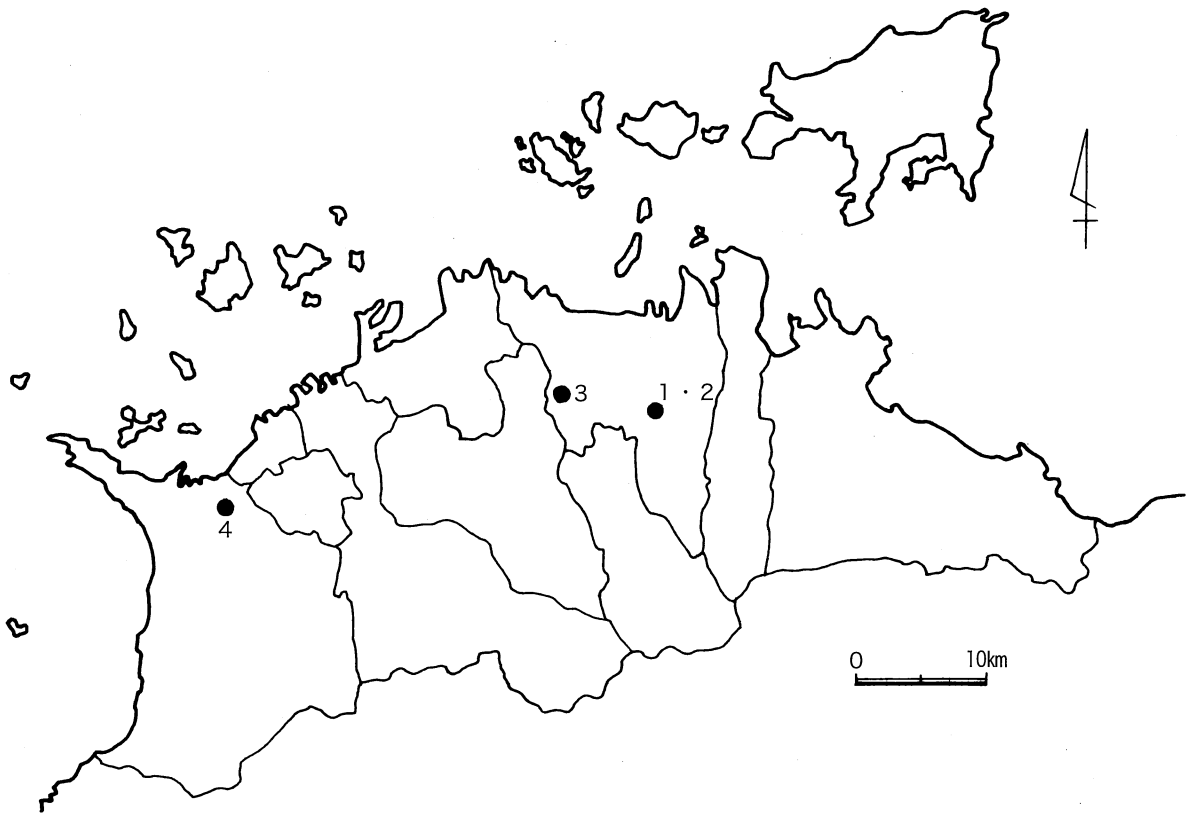
等を明らかにできなかった箇所もある。用地取得後確認が必要と考えられる。また12月からは保護措置が必要となる箇所の中で、県教委・土木部高松土木事務所と協議の上、道路の側溝予定地を3.5mの幅で2,030㎡の発掘調査を実施した。

2. 整理作業

今年度は、県道高松長尾大内線尾端遺跡、県道多度津丸亀線中東遺跡の整理作業と県道富田西志度線寺田・産宮通遺跡、県道高松長尾大内線南天枝遺跡、県道観音寺善通寺線北原遺跡・北原２号墳と県道多度津丸亀線中東遺跡の報告書印刷を行った。

番号	遺跡名	所在地	調査面積（㎡）	調査期間	遺構	遺物
1	三谷中原遺跡	高松市三谷町	2,404	平成14年４月～10月	溝・河川	土師器・須恵器
2	鎌野西遺跡	高松市三谷町	1,075	平成14年４月～10月	溝または河川	弥生土器
3	川原遺跡・本郷遺跡	高松市中間町・西山崎町	2,030	平成14年11月～平成15年３月	溝・小穴・河川	石器・弥生土器・土師器・須恵器
4	道免地区	三豊郡三野町大見	131	平成14年４月～７月	炭窯	須恵器・土師器・陶磁器

第１表　平成14年度　県道関係発掘調査一覧



第１図　収録遺跡位置図

2. 三 谷 中 原 遺 跡

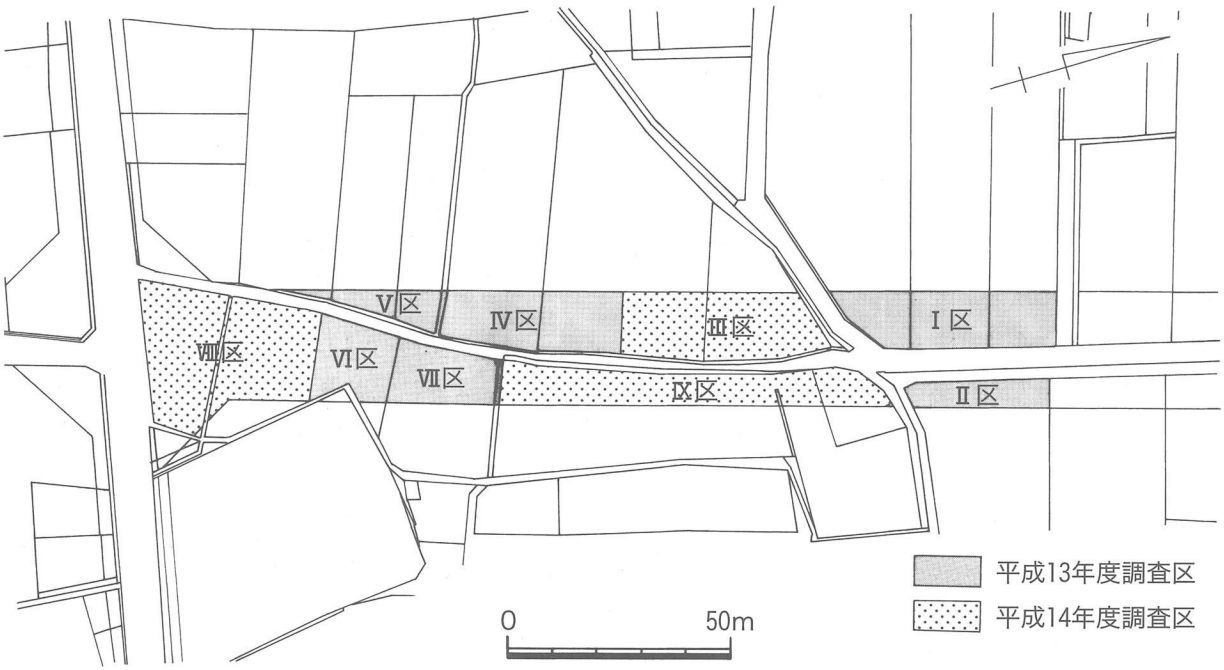
1. はじめに

三谷中原遺跡は高松平野の南部に位置する遺跡で、高松市三谷町に所在する。本遺跡は県道中徳三谷高松線建設に伴って、平成13年６月～平成14年１月に調査を行っており、古代の条里地割りの溝などを検出した。今年度の調査は平成14年４月～10月まで、昨年度の未調査部分である遺跡の中央部と東部について実施し、今年度をもって三谷中原遺跡の調査は終了した。今回の調査以前から、本遺跡の中央部には古代の官道である南海道が走っていたと推定されていた。これは歴史地理学の方面から、条里プランを検討したことによるもので、古代南海道は高松平野の山田郡・香川郡では三木町白山の山麓と国分寺町六ツ目山の北肩を結ぶルートを通っていたと推定されている。近世南海道は基本的にはそのルートを踏襲しているが、春日川と香東川の間ではやや南側に迂回している。本遺跡の200m南側には近世南海道が走っており、古代南海道と推定されているルートは本遺跡の中央付近に当たる。

もう少し詳細に検討すると、本遺跡の東1.4㎞には南から北へ春日川が流れているが、その東岸は比較的良好に条里地割りが残っている。春日川東岸は山田郡の１条から４条に当たるが、推定古代南海道の南側に位置する１条７里～４条７里の１町の南北の幅は東西の幅に比べて10～20m広い。これは、古代官道遺構の道幅や、それにかかわると推定される条里地割りから除外された余剰帯である帯状の部分の

1　三谷中原遺跡
2　鎌野西遺跡
3　北野遺跡
4　上林遺跡
5　空港跡地遺跡
6　上林城跡
7　宮西一角遺跡
8　高野丸山古墳
9　多肥宮尻遺跡
10　多肥松林遺跡
11　日暮松林遺跡
12　凹原遺跡
13　汲仏遺跡
14　太田下・須川遺跡
15　さこ・長池遺跡
16　さこ・松ノ木遺跡
17　林・坊城遺跡
18　六条・上所遺跡
19　東山崎・水田遺跡

第２図　遺跡位置及び周辺の遺跡（１／40,000）



第３図　三谷中原遺跡調査区割図（１／2,000）

幅と推定されるものである。だが、本遺跡の位置する春日川の西岸では、低い台地・丘陵と開析谷が交互に配列しており、条里地割りは現存していない。春日川の東岸の余剰帯を直線的に西方に伸ばすと、春日川の西岸にも東西に細長い地割りがみられ、この路線は本遺跡のほぼ中央部を通ることから、本遺跡内で南海道が検出されることが推定されていた。

2．弥生時代前期

①自然河川

ＳＲ04（第５図）　Ⅲ区とⅨ区で検出された。蛇行するが、基本的には北西から東に向かって流れる。河川の西部に当たるⅢ区西端では、幅0.5m、深さ0.25mの溝状の浅い流れが西から東へ向かって流れるが、Ⅲ区中央部では最大幅4.5m、最大の深さ0.8mと大きく広がり、北西から東に向かって流れる。市道を挟んで、東側のⅨ区では、西から東に向かって流れ、幅4.5～4.9m、深さ1.1～1.3mを測る。SR04の最上層には黒色粘土層、中層・下層には灰色細砂～小礫が堆積する。埋土から出土した遺物は微量で、上層からは弥生時代後期の土器片、最下層からは弥生時代前期の底部片が出土した。

3．弥生時代後期から古墳時代前期

①自然河川

ＳＲ01（第５図）　本遺跡の南端に位置するⅧ区で検出された河川である。南から北東方向に流れる。昨年度調査を実施したⅥ区の南部でもこの河川の下流側の北側の部分が検出されている。この河川は古代以降の河川SR02と重複して、壊されているため、元来の形状は不明であるが、幅15m、深さ1.5m以上を測る。河川埋土中からは多量の土器が出土したが、下層からの出土が最も多く、完形品をはじめとする多量の弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土した。

3．古代

①溝

写真１　ＳＤ05～ＳＤ07検出状況（北東より）

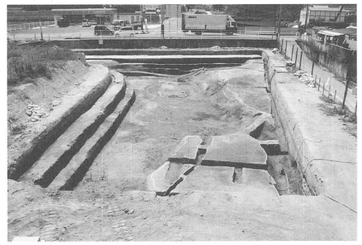
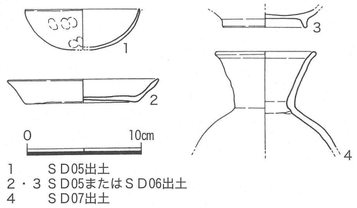
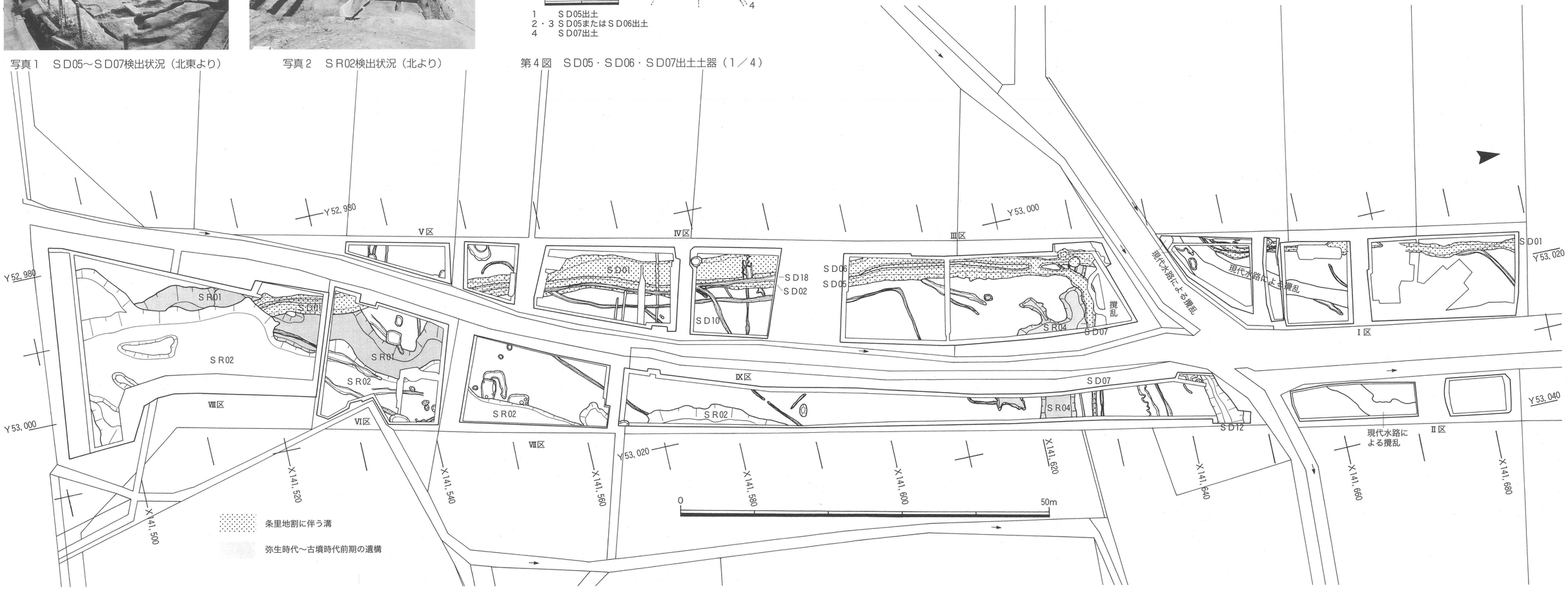


写真２　ＳＲ02検出状況（北より）



1　　ＳＤ05出土
2・3　ＳＤ05またはＳＤ06出土
4　　ＳＤ07出土

第４図　ＳＤ05・ＳＤ06・ＳＤ07出土土器（１／４）



第５図　三谷中原遺跡遺構配置図（１／400）

ＳＤ05・ＳＤ06・ＳＤ07・ＳＤ08（第５図、写真１） 本遺跡周辺では条里地割りは現存しないが、Ⅲ区では山田郡の条里の６条と７条の境に当たる南北方向の溝が検出された。この溝はⅢ区の南側に位置し、昨年度調査を実施したⅣ区・Ⅴ区でも検出されている。SD05とSD06は重複しており、下層の溝がSD06、上層の溝はSD05に当たる。SD05は幅1.3～1.6m、深さ0.6～0.7m、SD06は幅1.6m前後、深さ0.6～0.8mを測る。この溝からの出土遺物は少なく、明確に年代のわかる遺物は少ないが、９～10世紀の須恵器Ⅲ片や、10世紀代の黒色土器椀が出土している。この溝はⅢ区の北端まで伸びているが、この溝の途中から分岐し、北に向かって走る溝と東に向かって弧を描いて屈曲する溝（SD07）がある。北に向かってそのまま延びるSD08は幅1.1m、深さ0.1mと浅く、東に向かって屈曲する溝SD07は幅1.8m、深さ0.3mを測る。SD07のほうが深いことから、東に屈曲する流れのほうが大きいことがうかがわれる。この溝は市道を挟んで東側に位置するⅨ区でも検出されており、まっすぐ東側に走ることが確認されている。なお、Ⅲ区の北側には道路や用水路が現存しており、発掘調査を実施していないが、Ⅲ区の北端から９m北側には昨年度調査を実施したⅠ区がある。この調査区でも６条と７条の境に当たる南北の溝（SD01）が検出されているが、この溝はⅠ区の南部では西に向かって屈曲している。付近の地形をみると東部よりも西部、北部よりも南部が高いことから、Ⅰ区で検出した溝は西から東の方向に向かい、屈曲して北に向かって走っていることがうかがわれる。Ⅲ区の東に向かって屈曲して伸びる溝とⅠ区で検出した溝の間は16mを測る。本遺跡の北方に位置する北野遺跡では東西方向の条里地割りの溝（SD03）が検出されている。SD03の最終埋没は江戸時代であるが、SD03と三谷中原遺跡Ⅰ区で検出されたSD01の南端の東西方向に流れる部分の間の距離は220m前後を測り、約２町を測る。

②自然河川

ＳＲ02（第５図、写真２） Ⅸ区で検出した河川である。南から北東方向に流れる。昨年度調査を実施したⅥ・Ⅶ区南東隅でもこの河川の上流側に当たる部分が検出されている。Ⅸ区で検出されたSR02は弥生時代後期から古墳時代前期の河川SR01と重複しており、河川の東部は未検出で、調査区外に及ぶ。幅15m、深さ1.5m以上を測る。河川埋土中からは多量の土器が出土したが、重複するSR01に伴う土器も多く、弥生時代後期から古墳時代前期の土器のほかに古代の土器が出土した。

4. まとめ

今回の調査では弥生時代から古墳時代前期の自然河川、古代の溝・自然河川などの遺構を検出した。今年度の調査区は南海道推定地を発掘することから、南海道の痕跡が発見されることが期待されていた。残念ながら、道路遺構そのものは検出できなかったが、東西方向の条里地割りの溝に挟まれた部分が確認でき、昨年度の調査区であるⅠ区と、今年度の調査区であるⅢ区の間には東西方向の条里地割りの溝に挟まれた部分が確認できた。

前述したように、歴史地理学の方面ではこのあたりに古代南海道が東西方向に走っていた可能性が指摘されていた。これは第６図のように春日川の東岸では、山田郡東部の１～４条７里の南北幅は東西よりも10～20m程度幅広いことによる。また、この付近は昭和時代になって、一部区画整理が行われているが、明治時代に作成されたこの付近の地籍図（第７図）をみると、春日川の西岸では、春日川東岸で南海道と推定された余剰帯の延長上に、細長い地割りが東西に連続することがうかがわれる。この地割りは三谷中原遺跡で確認した東西方向の条里地割りの溝に挟まれた部分の延長にも当たる。今後、周辺の調査が進めば明らかになるが、三谷中原遺跡のⅠ区とⅢ区の間の条里地割りの溝に挟まれた部分は古代の南海道であった可能性が非常に高いものと推定される。

第6図　高松平野南部に残る条里地割（1／20,000）

第７図　明治時代作成地籍図と推定南海道（１／5,000）

3. 鎌 野 西 遺 跡

1. はじめに

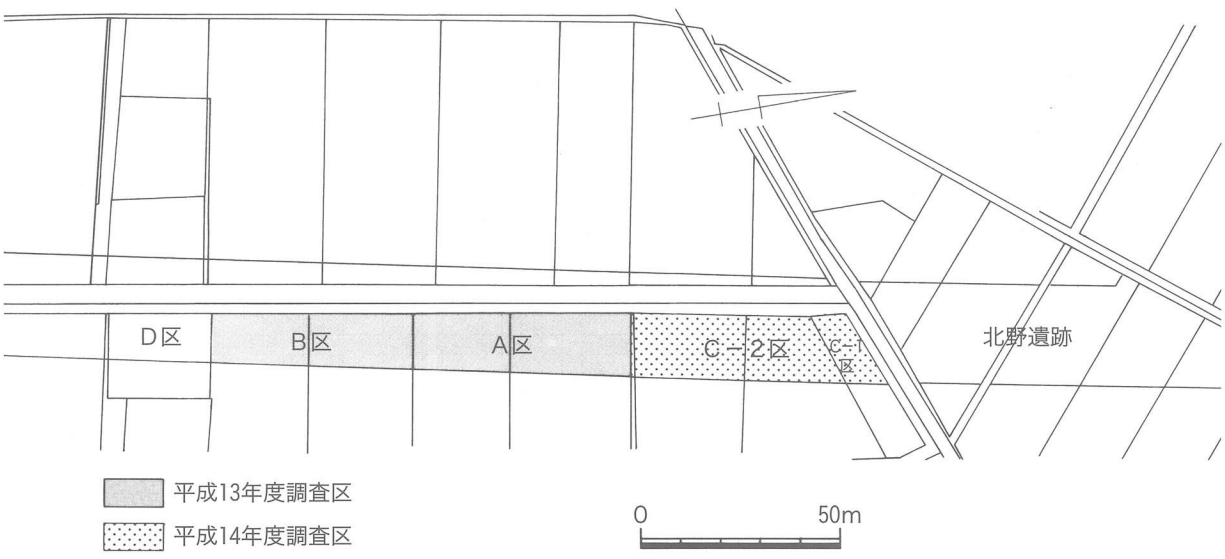
鎌野西遺跡は高松平野の南部に位置する遺跡で、高松市三谷町に所在する。本遺跡の北側には北野遺跡、南側には三谷中原遺跡が隣接する。本遺跡は県道中徳三谷高松線建設に伴って、平成13年６月～９月に調査を行っており、弥生時代後期の溝・河川・土坑を検出した。今年度の調査は平成14年４月から７月まで、昨年度の未調査部分である遺跡の北部について実施した。

2. 調査の成果

昨年度の調査区の北側に位置する今年度の調査区をC区として、調査を実施した。だが、C区の北部には、調査区の東側に隣接する家屋建設のための仮設道が存在しており、この仮設道によって、C区を二分されたため、北側をC―１区、南側をC－２区とした。C―１区では調査区の大半が現地表から２m以上、攪乱を受けていた。南部のC―２区では、調査区の東西の壁沿いに南北に細長く、現地表から深さ１mまで、攪乱を受けていた。C―２区では、弥生時代の河川または溝（SD201・SD202・SD203）や落ち込

写真３　C－２区全景（北東より）

写真４　ＳＤ201検出状況（東より）



第８図　鎌野西遺跡調査区割図（１／2,000）

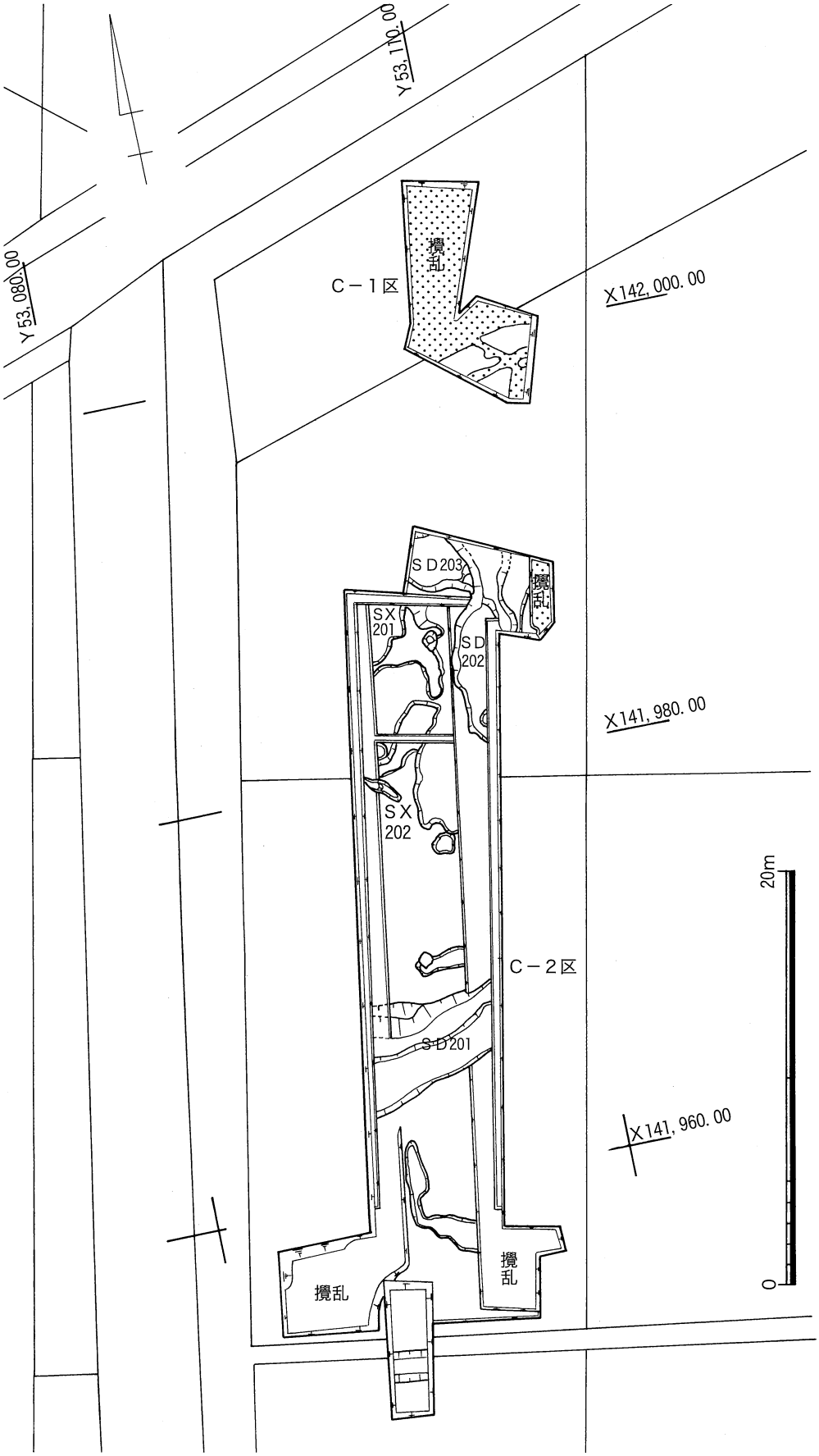
み（SX201・SX202）が検出された。

ＳＤ201（第９図・写真４） Ｃ－２区の中央やや南寄りで検出された河川または溝である。南西から北東に向かって走る。検出幅は３～５m、深さ1.3mを測る。出土遺物は少量で、弥生時代後期の土器と、底面付近から自然木が出土した。

ＳＤ202・ＳＤ203（第９図） Ｃ－２区の北東部で検出された河川または溝である。SD202とSD203は直交しており、一部重複する。SD202は南から北に向かって走る。幅３m、深さ0.6mを測る。SD203は東西方向に流れる。調査区北壁沿いで検出されたため、全体は不明であるが、幅３m以上、深さ1.2mを測る。出土遺物はSD202・SD203ともに少量で、SD202からは弥生時代後期、SD203からは弥生時代前期の土器片が出土した。

3．まとめ

今年度は、昨年度調査を実施したA区・B区の北側の調査区（C区）の調査を実施した。C区では、弥生時代前期・後期の河川または溝が検出されたにすぎず、比較的遺構は希薄であった。



第９図　鎌野西遺跡Ｃ区遺構配置図（１／300）

4. 川原遺跡・本郷遺跡（中間地区・円座地区）

1. 立地と環境

地域高規格道路県道円座香南線の調査対象地は、古川と国分寺町との行政区画境に位置する六ツ目山・堂山丘陵群に挟まれた高松平野西端の平野部である。地形的には大きくは南西から北東に向けて緩やかに傾斜する平野部に立地する。旧香川郡の西端に位置し、条里地割が良好に残る。標高は対象地の中程で海抜30mほどを測る。対象地の北部には旧南海道と推定されている条里地割の余剰帯が認められる。推定南海道と重複するように東西方向に走る市道は古川から西で余剰帯から北に離れており、県道円座香南線の路線予定地内で余剰帯の残存状況は良好である。周辺の遺跡としては対象地の北に、正箱遺跡・兀塚遺跡・中間東井坪遺跡などの奈良時代の集落遺跡がある。

2. 調査の成果

①予備調査について

円座香南線の中間地区・円座地区は道路改良工事の工事区名であり、今回の対象地の中間地区は中間町に所在するが、円座地区は西山崎町に所在する。予備調査では、対象地の概要を把握するため、当初予定を先行して10月に一部着手し、12月初旬まで実施した。用地取得状況から国道32号バイパス以南については対象から除外した。予備調査対象面積は約80,000㎡ である。実掘面積は1,468㎡ で対象面積の約２％である。なお中間地区北端の県道三木国分寺線隣接地と円座地区の家屋密集地については用地取得ができていない箇所が広く遺跡の状況を把握できなかったため改めて確認が必要であろう。

予備調査の結果、中間地区北部の市道西井坪円座線の南側では幅３m深さ60㎝ ほどの東西溝を、またその溝から北へ約13mの間隔で概ね平行する溝を検出した。北側の溝は幅３mあるものの深さが20㎝ ほどと浅いが、両溝の溝底の比高差は３㎝ ほどしかない。この箇所は南から北へ下る地形であり、北側は元々低かった可能性が高い。両溝の関連性は高い。両溝とも遺物は非常に少ないが、南側の溝の上層からは９～10世紀代の須恵器片が出土している。また北側の溝は、中世土師器皿を含む溝に切られている。また現存条里地割りをみるとこの箇所で条里地割りの余剰帯と考えられる10数メートル幅の不整合帯が東西に走る。古代南海道と概ね一致するとされている市道西井坪円座線が調査対象地付近では北へ膨らむことから、検出した両溝は南海道の側溝である可能性が高い。この中間地区北部が川原遺跡（中間円座地区A）である。

中間地区北部から南へ250mほどは遺構が検出されなかった。後世の水田化の際の削平の影響も少しはあるが元来集落域としては使用されていなかったものと考えられる。中間地区の南端の中間町では幅５m前後の南東から北西の方向をもつ溝を検出した。この溝の埋没後８世紀代の須恵器を含む層に被覆されている。調査対象地の西側が地形的には安定し、丘陵裾部を中心として現在の集落が広がっている。対象地の西側に古代の集落域が広がる可能性が高い。円座地区の北部の地区の西山崎町の北部では溝・ピットを検出している。弥生土器片等が中間地区の南端と連続しており、中間地区南部以南が本郷遺跡ある。

路線が現在の円座香南線と接する付近では地表下50㎝ ほどで黒色砂質シルトの厚い堆積が広く広がる。西側の堂山丘陵の谷筋を中心として形成された低湿地が広がると考えられる。円座地区の西山崎町綱敷天満宮の東側では南東から北西の方向を持つ溝を検出している。埋土からは古墳時代前期の土師器高杯が出土している。

1　川原遺跡
2　本郷遺跡
3　薬王寺遺跡
4　正箱遺跡
5　川岡遺跡Ⅱ区
6　川岡遺跡Ⅰ区
7　御厩大塚古墳
8　中森遺跡
9　冗塚遺跡
10　中間東井坪遺跡
11　中間西井坪遺跡
12　矢塚北古墳
13　矢塚南古墳
14　馬塚古墳
15　犬のくそ塚
16　西山崎２号墳
17　西山崎３号墳
18　西山崎４号墳
19　本尭寺北２号墳
20　本尭寺北１号墳
21　本尭寺西古墳
22　福家古墳
23　石ヶ鼻古墳
24　西山崎古墳群
25　金比羅社古墳
26　立石神社古墳
27　岡本配水池北遺跡

第10図　遺跡位置図及び周辺の遺跡（１／40,000）

対象地南部の西山崎町胴面塚付近の路線内では現存条里地割坪界水路と平行する２条の南北方向溝を検出した。道路状遺構となる可能性がある。

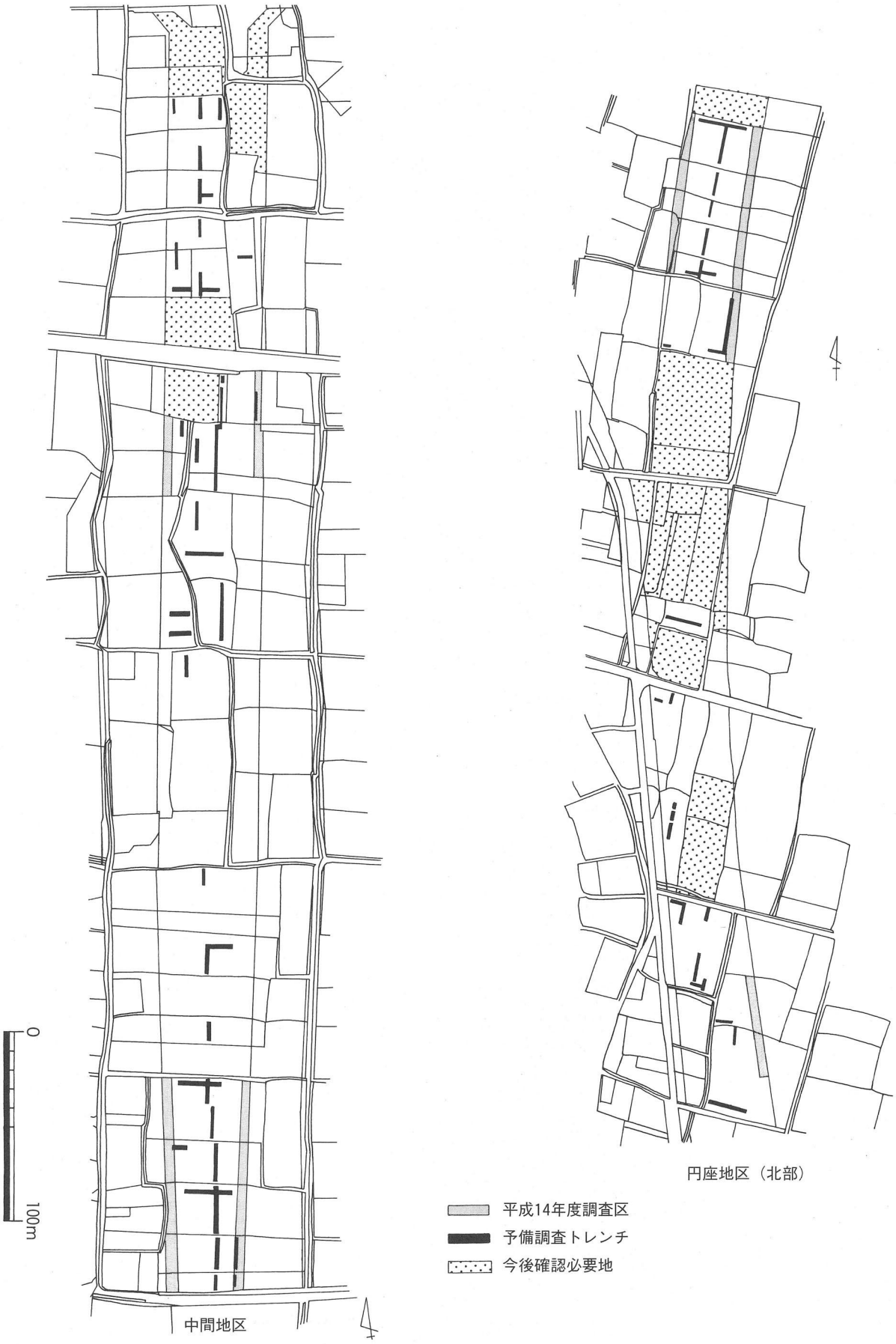
２．発掘調査

遺跡名は中間地区北部の市道西井坪円座線周辺の集落名として川原、中間地区南部から円座地区にかけては本郷とあり、遺跡名となった。なお、予備調査との関係では中間地区北部の中間円座A区が川原遺跡、中間円座B区からD区が本郷遺跡となる。県教委および県高松土木事務所と協議の結果、調査区は道路両端に設置される側溝部が対象となったため、道路端から3.5mの幅で調査を実施した。予備調査終了後、準備を開始し、12月末現地作業を開始した。発掘調査対象面積は、2,030㎡である。遺構の測量には国土座標Ⅳ系を用いたが、調査区の南北の両端に基点を設置し基準線として測量を実施した。

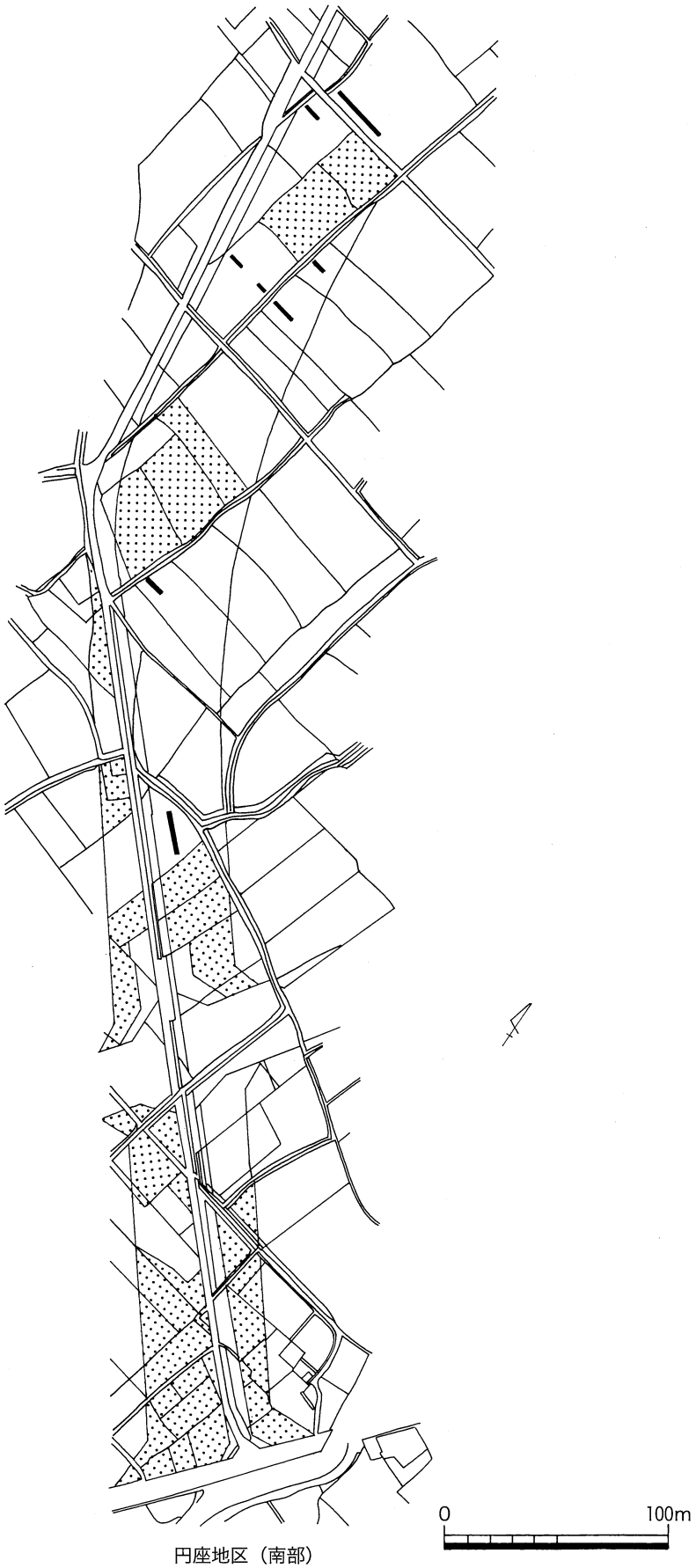
発掘調査は、本郷遺跡の北部の中間円座B区、川原遺跡、本郷遺跡南部の中間円座C区、D区の順で実施した。１月にまず着手したのは、中間円座B区の本郷遺跡北部の調査区である。南東から北西方向の幅５mほど深さ検出面から0.7mほどの大規模な溝を検出した。溝底も安定しており、方向が等高線と平行するように走ることから人為的に掘削されたものと考えられる。最下層から弥生時代後期後半代の土器が出土し、時期的幅が少ないこともあり、開削時期を示しているものと考える。現在西側丘陵裾を古川から取水して走る用水の先行形態と考えられる。

３．まとめ

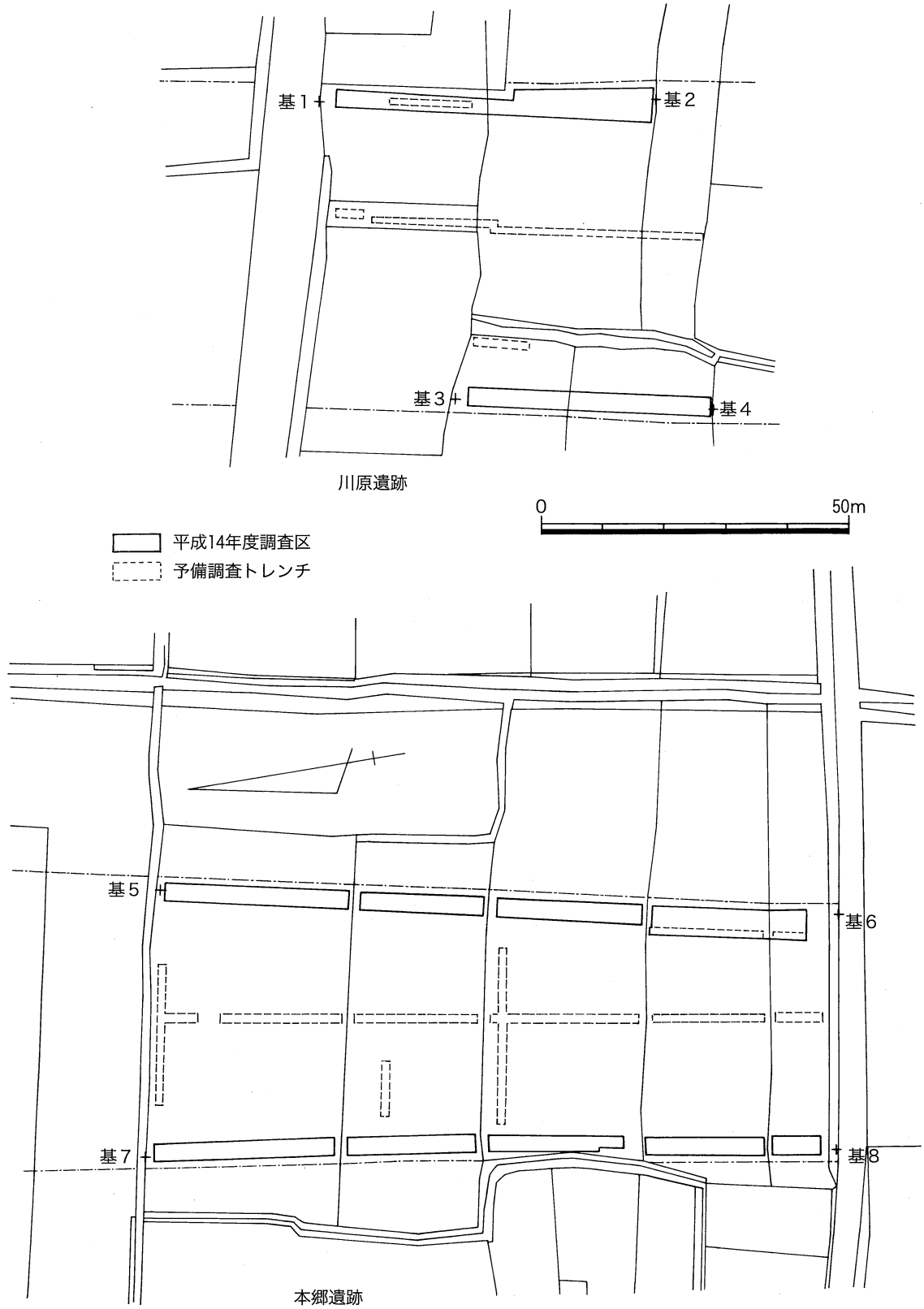
今回の調査で最も注目されるのは川原遺跡の南海道推定箇所であろう。調査対象地では市道が南海道推定地の北にずれることから、遺構の保存状態が良好であることが予測された。予備調査の結果では南海道側溝の可能性が高い溝を検出しているが、必ずしも検出した溝は、側溝として同じ規模を有するものではなかった。しかし地形的な制約のためか、溝の規模が南北では異なるものの、両溝が平行して走ることや溝底の差がほとんどないこと、条里地割と同じ方向を呈すること、現存条里地割の余剰帯と一致することなどから、南海道の側溝である可能性は十分考えられる。高松平野の旧香川郡、山田郡を通して一直線に東西方向に走ると推定されている古代南海道のほぼ西端の箇所を確認できた意義は大きい。この結果、今年度実施した高松市三谷町の三谷中原遺跡において検出した東西方向の溝も南海道の側溝として位置づける可能性が高まった。本郷遺跡に置いてはまだ南海道推定地中央部が幅40m以上で残っており、今後の調査により南海道の本体部がより明瞭な状況で確認できる可能性が高い。また本郷遺跡で検出した弥生時代後期の大規模な溝は古川西岸域の開発史を考える上で重要な資料であろう。



第11図　中間地区・円座地区（北部）予備調査トレンチ位置図及び本調査区位置図（１／3,000）



第12図　円座地区（南部）予備調査トレンチ位置図（１／3,000）



第13図　川原遺跡・本郷遺跡調査区位置図（１／1,000）

5. 道免地区

1. 立地と環境

調査対象地は三豊郡三野町大見道免に位置している。火上山の西麓裾部が平野と接する近辺の標高20～50mにかけての緩斜面にあたり、現在は主に果樹園や水田として土地利用がなされている。対象地の北半は西に下る緩傾斜地、南半は丘陵から張り出した尾根と谷の連続する地形に分けることができる。

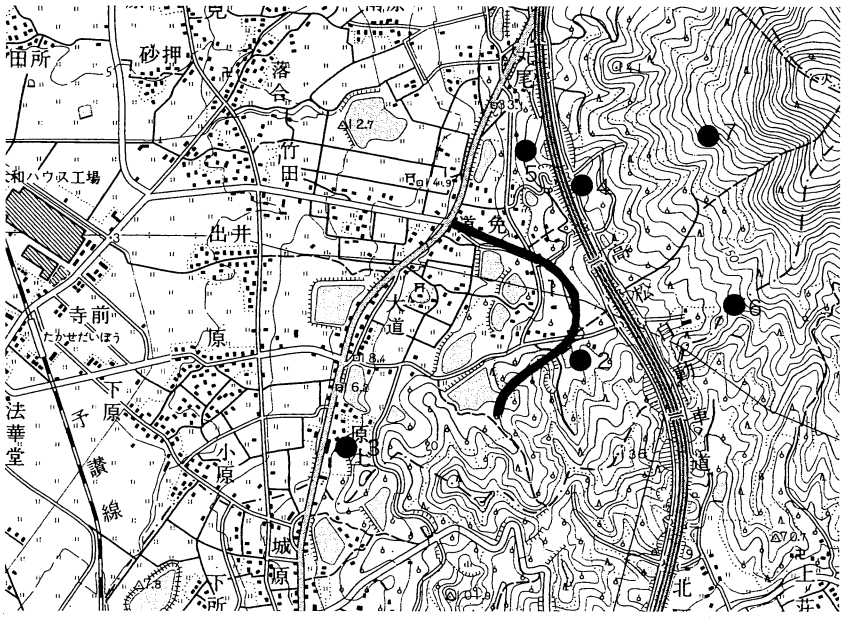
対象地の周辺には、男谷窯跡や手石場窯跡などの７世紀代の須恵器を生産した窯跡が知られており、三野古窯跡群として把握されている。対象地はこの中を縫うように位置しており、窯跡本体やそれらに関連する遺構の存在が予測されるところである。

2. 調査の成果

予備調査は平成14年４月１日から５月31日の期間で、用地買収の終了していた箇所について調査を実施した。さらに７月18日に用地買収の進んだ対象地西端部分について追加の調査を実施した。調査方法は、重機並びに人力を併用したトレンチ調査で、トレンチ総数10本（実掘面積131㎡）を設定して調査した。

その結果、北半の３～６トレンチでは基盤整備などの後世の削平を受けた緩傾斜地、１・２トレンチは埋没した谷筋に当たることが判明したが、いずれも遺構・遺物は認められなかった。南半の７トレンチでは谷に面した傾斜地を確認し、包含層中から近接する男谷窯跡と同時期の７世紀代の須恵器片を若干検出したが、遺構は認められなかった。また、谷の奥部に設定した８トレンチでは長径2.0mの楕円形を呈した炭・灰の堆積を確認した。遺物が含まれていないため時期の特定はできないが、炭・灰層の直下は赤く被熱しており炭焼きを目的とした炭窯である可能性が高い。

なお、調査対象地については調査結果を検討した香川県教育委員会文化行政課によって今回の予備調査を持って調査終了と判断された。



1．今回の予備調査対象地

2．男谷窯跡

3．原上窯跡

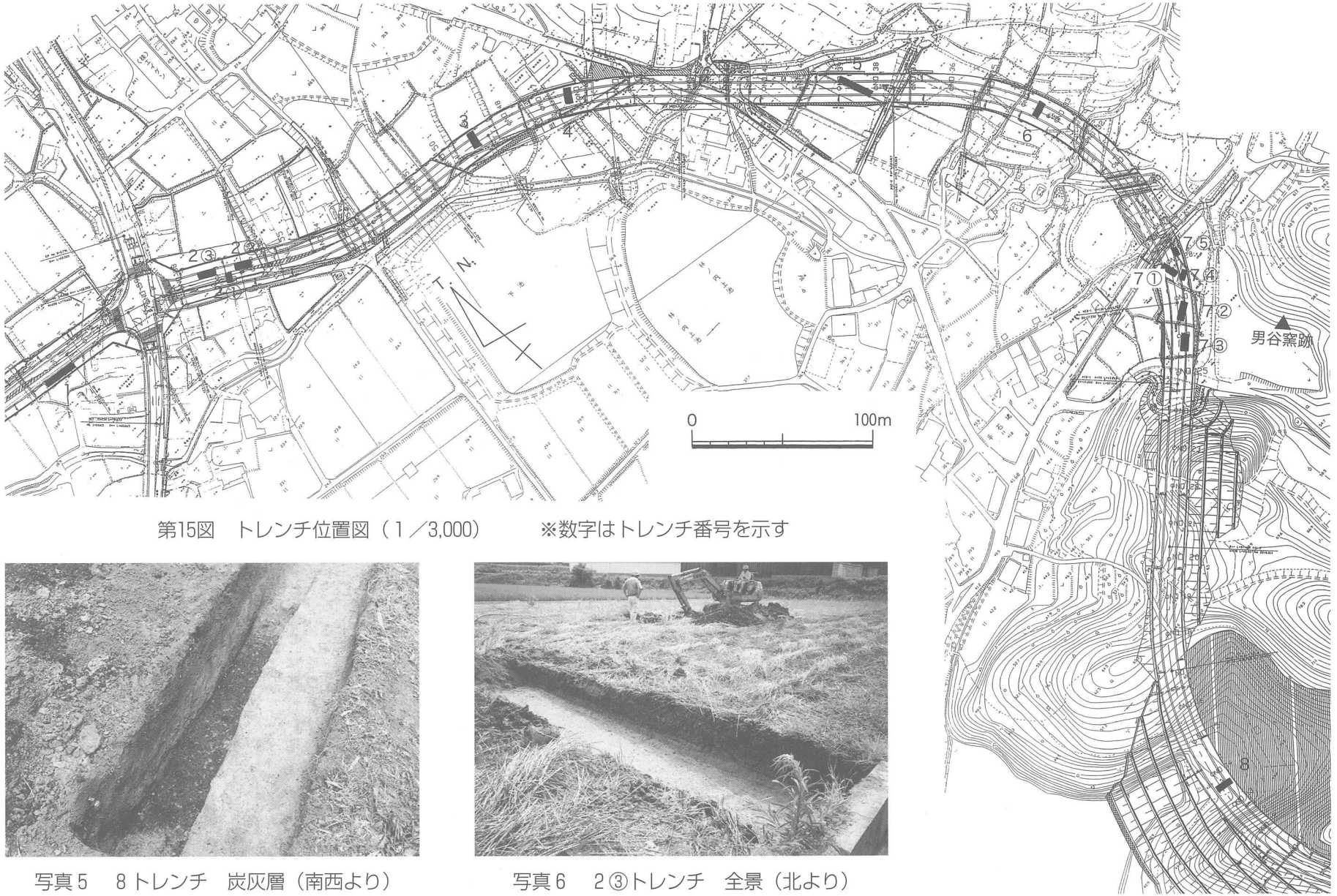
4．道免１号窯跡

5．道免２号窯跡

6．手石場窯跡

7．大平窯跡

第14図　調査位置と周辺の遺跡（１／25,000）



第15図　トレンチ位置図（１／3,000）　　※数字はトレンチ番号を示す

写真５　８トレンチ　炭灰層（南西より）

写真６　２③トレンチ　全景（北より）

報 告 書 抄 録

ふりがな	けんどうかんけいまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	県道関係埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	
巻次	平成14年度
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	藤好史郎・森下友子・宮崎哲治
編集機関	財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒762－0024　香川県坂出市府中町南谷5001－4　　TEL0877－48－2191
発行機関	香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
発行年月日	西暦2003年3月31日

総頁数	目次等	本文	観察表	図版	写真枚数	挿図枚数	付図枚数
28頁	6頁	22頁	0頁	0頁	6枚	15枚	0枚

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 町	コード 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
みたになかはらいせき 三谷中原遺跡	かがわけんたかまつし 香川県高松市 みたにちょう 三谷町			34度 16分 47秒	134度 4分 33秒	2002.4～ 2002.10	2,404	県道中徳三谷高松線に伴う調査
かまのにしいせき 鎌野西遺跡	かがわけんたかまつし 香川県高松市 みたにちょう 三谷町			34度 16分 45秒	134度 4分 33秒	2002.4～ 2002.7	1,075	県道中徳三谷高松線に伴う調査
かわらいせき・ほんごういせき 川原遺跡・本郷遺跡	かがわけんたかまつし 香川県高松市 なかつまちょうにしやまさきちょう 中間町・西山崎町			34度 17分 0秒	134度 0分 0秒	2002.11 ～2003.3	2,030	県道円座香南線に伴う調査
どうめんちく 道免地区	かがわけんみとよぐん 香川県三豊郡 みのちょうおおみ 三野町大見			34度 12分 15秒	133度 43分 53秒	2002.4～ 2002.7	131	県道鳥坂インター線に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三谷中原遺跡	集落	弥生時代	河川	弥生土器	
		古墳時代	河川	土師器	
		平安時代	溝	土師器・須恵器	
鎌野西遺跡	集落	弥生時代	河川	弥生土器	
川原遺跡・本郷遺跡	集落	弥生時代	河川	弥生土器	
		古代	溝	須恵器	
道免地区		古代・中世・近世	炭窯	須恵器・土師器・陶磁器	後世の削平が著しい

県道関係埋蔵文化財発掘調査概報

平成14年度

平成15年３月31日

編集・発行　香川県教育委員会
財団法人　香川県埋蔵文化財調査センター
香川県坂出市府中町南谷5001番地４
電　話　(0877) 48－2191
ＦＡＸ　(0877) 48－3249

印　　刷　若葉プリント